

「情報公開文書」

以下、本文-----

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

WPW 症候群に対するアブレーションでの Open-Window Mapping の有用性に関する研究

1. 研究の対象

2021年6月1日から2022年12月15日の間に当院の循環器内科でWPW症候群に対するカテーテルアブレーションを受けた方を対象と致します。

2. 研究目的・方法

目的 下記の試料・診療情報等を利用し、WPW症候群に対するアブレーションでの新しい三次元マッピングの手法（Open-Window Mapping）の有用性について解明することを目的とした研究を実施するため、当院においてWPW症候群の治療を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに3次元マッピングのデータを選び、Open-Window Mappingに関する分析を行い、アブレーション治療での有用性について調べます。

方法 この研究に使用する情報として、診療情報から項目3に記載する情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（心電図、心臓超音波検査）、3次元マッピングデータ

4. 研究組織

共同研究機関および研究責任者名

東海大学医学部内科学系循環器内科学 柳下 敦彦
横浜市立みなと赤十字病院循環器内科 山内 康熙

既存試料・情報の提供のみを行う機関および担当者（責任者）名、連絡先
なし

5. 情報の提供先・提供方法

東海大学医学部付属病院循環器内科は、匿名化された診療情報とマッピングデータを、横浜市立みなと赤十字病院より、電子的配信にて提供を受け、解析を行います。

6. 利益相反に関する事項

この研究は、特定企業等からの直接的な資金提供はないため利益相反はありません。

7. お問い合わせ先

東海大学医学部付属病院 （電話：代表 0463-93-1121 内線：2200）
研究責任者 循環器内科 柳下 敦彦
問い合わせ担当者 循環器内科 柳下 敦彦

-----以上